

## 令和2年度『新公立相馬総合病院改革プラン』達成のための取組み

### ◎ 新公立相馬総合病院改革プラン概要

「新公立相馬総合病院改革プラン」は、平成27年3月31日付け総務省自治財政局長通知「新公立病院改革ガイドライン」に基づき、平成29年3月に計画を策定し、実施期間を平成28年度から平成32年度（令和2年度）までの5ヶ年間とするものです。

なお、当改革プランは、平成21年度から平成27年度までを計画期間として取り組んだ「公立相馬総合病院改革プラン」の実施結果を踏まえつつ、東日本大震災と原子力災害の影響が未だ残る当地域においては、他の地域とは違う極めて厳しい医療環境にあることに配慮した計画であり、加えて、福島県が制定した「福島県地域医療構想」との整合性を図ったものとなっています。

#### 1 令和2年度入院及び外来患者利用状況・・・【資料1-1・資料1-2参照】

令和2年度入院延患者数は43,975人（一日平均120.5人）で、前年度対比2,716人（△5.8%）減少しております。

診療科ごとに前年度と比較しますと、整形外科（2,013人）は増加したものの、内科（△1,711人）、外科（△825人）、小児科（△1,384人）、泌尿器科（△811人）は減少しております。

一方、外来延患者数は93,838人（一日平均386.2人）で、前年度対比9,528人（9.2%）減少しております。

診療科ごとに前年度と比較しますと、内科（△1,639人）、外科（△923人）、整形外科（△365人）、小児科（△5,224人）、眼科（△15人）、泌尿器科（△220人）、産婦人科（△42人）、耳鼻咽喉科（△1,040人）、皮膚科（△60人）とすべての診療科において減少しております。

#### 2 令和2年度公立相馬総合病院事業会計決算状況・・・【資料2参照】

令和2年度病院事業会計決算は、病院事業収益が4,069,525千円、病院事業費用が3,921,954千円であったことから、差し引き147,571千円の純利益を計上しました。

収支状況を前年度と比較しますと、収益においては、医業収益は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け88,011千円減少、医業外収益は新型コロナウイルス感染症関連補助金収入の増加等により210,676千円増加、特別利益は不良債務解消のための特別負担金の減額等により217,166千円減少したことにより、病院事業収益全体として94,501千円の減少となりました。

一方、費用においては、医業費用は職員給与費、材料費、減価償却費の減少等により134,437千円減少、医業外費用は支払利息が減少したものの雑損失が増加したこと等により6,934千円増加、特別損失は新型コロナウイルス感染症対応従事者への慰労金の支

給等により 60,459 千円増加したことにより、病院事業費用全体として 67,044 千円の減少となりました。

### 3 経営指標の実績

#### (1) 経営指標の令和 2 年度目標値及び実績値

改革プランが定める経営指標の令和 2 年度目標値及び実績値は、次のとおりであります。

	令和2年度(目標値)	令和2年度(実績値)	比 較
経常収支比率(%)	96.2	99.2	3.0
医業収支比率(%)	85.6	80.9	▲ 4.7
資金不足比率(%)	3.6	10.4	6.8
材料費対医業収益比率(%)	23.3	22.5	▲ 0.8
薬品費対医業収益比率(%)	12.5	11.1	▲ 1.4
委託費対医業収益比率(%)	11.9	12.3	0.4
職員給与費対医業収益比率(%)	54.2	56.6	2.4
後発医薬品使用割合(%)	70.0	79.1	9.1
1日当たり入院患者数(人)	150.0	120.5	▲ 29.5
入院単価(円)	37,500	40,053	2,553
1日当たり外来患者数(人)	498.0	386.2	▲ 111.8
外来単価(円)	8,880	10,681	1,801
病床利用率(%)	65.2	73.5	8.3
平均在院日数(日)	14.4	13.4	▲ 1.0
医師数(人)	24	23	▲ 1
現金残高(百万円)	140	245	105
企業債残高(百万円)	2,176	2,176	0

#### (2) 経営指標の令和 2 年度目標値未達成の要因 (主なもの) ・ ・ 【別紙 1 ・ 別紙 2 参照】

##### ① 医業収支比率(医業収益／医業費用×100)

医業費用は、職員給与費、材料費、経費の減少等により見込額に比較し 213 百万円減少しましたが、医業収益が新型コロナウイルス感染症の影響を受け見込額に比較し 355 百万円減少したことから、医業収支比率は目標値を 4.7%下回る結果となりました。

##### ② 資金不足比率(不良債務／医業収益×100)

不良債務が見込額に比較し一時借入金の増加等により 187 百万円増加となったこと及び資金不足比率算定の分母となる医業収益が新型コロナウイルス感染症の影響

から見込額に比較し 355 百万円減少したことから、資金不足比率は目標値を 6.8% 上回る結果となりました。

### ③ 委託費対医業収益比率

委託費は見込額に比較し 31 百万円減少しましたが、医業収益が新型コロナウイルス感染症の影響から見込額に比較し 355 百万円減少したことから、医業収益に対する委託費比率は目標値を 0.4% 上回る結果となりました。

### ④ 職員給与費対医業収益比率

職員給与費は見込額に比較し 119 百万円減少しましたが、医業収益が新型コロナウイルス感染症の影響から見込額に比較し 355 百万円減少したことから、医業収益に対する職員給与費比率は目標値を 2.4% 上回る結果となりました。

## 4 改革プラン数値目標達成のための取組結果

### (1) 収入の確保

#### ① 常勤医師等の確保

##### 《目 標》

住民から要望の高い呼吸器科、糖尿病内科等の常勤医師確保を目指す。併せて、当院が標榜する診療科における常勤医師の複数配置を目標とする。

##### 《実施結果》

#### (A) 常勤医師の確保

##### ●常勤医師配置状況

各年度 4 月 1 日現在

	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度
常勤医師数	20 名	23 名	24 名	20 名	22 名	23 名	23 名

※上記の医師数は、嘱託（会計年度任用）医師及び初期臨床研修医を含む。

各年度 4 月 1 日現在の常勤医師数は、上記のとおりであり、東日本大震災以降休診となっている産科をはじめ、令和 3 年 10 月末現在常勤医師が不在の診療科は、耳鼻咽喉科、皮膚科、眼科などではありますが、当該診療科の常勤医師の確保は依然として厳しい状況が続いております。

今後とも、東北大学医学部、福島県立医科大学等関係機関への働きかけを継続し、常勤医師の早期確保に努めてまいります。

なお、令和 3 年 11 月現在、常勤医師が 1 名の診療科は、整形外科であります。

#### (B) 初期臨床研修医の確保

初期臨床研修医を確保するため、積極的に医学生の病院見学（9 名）、実習生（11 名）を受け入れるとともに、継続的に各種ガイダンス等（6 回）に参加して研修医の募集活動を行った結果、令和 2 年度は初期臨床研修医 1 名（令和 3 年度 3 名）

を採用しました。

### (C) 看護師の確保

看護師等の確保を目的として、当院に就職を希望する看護学生等に対し月額6万円の奨学金を貸与する制度を平成28年度に創設しました。

令和2年度は、7名の看護学生に貸与しました。今後も本制度を積極的に活用し、看護師の安定確保に努めてまいります。

## ② 開業医との連携強化

### 《目 標》

管内診療所等との病診連携を一層強化することにより患者紹介率の向上を図り、入院患者等の確保に努める。

### 《実施結果》

#### ●紹介患者受入状況

	紹介患者数	入院患者数	入院化率(%)
平成27年度	3,628人	780人	21.5
平成28年度	3,693人	807人	22.0
平成29年度	3,662人	637人	17.4
平成30年度	3,469人	628人	18.1
令和元年度	3,462人	638人	18.4
令和2年度	3,088人	403人	13.1

#### ●高度医療機器共同利用件数

	CT	MRI	合 計
平成29年度	67	0	67
平成30年度	72	1	73
令和元年度	78	0	78
令和2年度	73	0	73

管内診療所を含め、他医療機関からの「紹介患者受入状況」及び管内開業医の「CT、MRIの利用状況」は、上記のとおりであります。

令和2年度においては、紹介患者数、高度医療機器利用件数とも、新型コロナウイルス感染症の拡大により、前年度に比較し減少しましたが、今後も積極的に病診連携を進め、紹介率の向上に努めてまいります。

## ③ 人間ドック、検診業務の強化

### 《目 標》

各種検診業務の積極的な受入れに努めるとともに、MRI、CT、マンモグラフィ等の高度医療機器の有効活用により、地域住民の疾病予防や早期発見と早期治療に寄与するとともに、医業収益の増収を図る。

《実施結果》

● 検診・人間ドックの受診状況

	27年度	28年度	29年度	30年度	R元年度	R2年度
一般健診	627人	695人	723人	809人	809人	828人
施設検診	1,745人	1,715人	1,543人	1,342人	1,066人	951人
人間ドック	142人	147人	159人	153人	185人	203人
合計	2,514人	2,557人	2,425人	2,304人	2,060人	1,982人

● CT及びMRI撮影者数

	27年度	28年度	29年度	30年度	R元年度	R2年度
CT	4,685人	5,007人	4,951人	5,453人	5,535人	5,703人
MRI	1,572人	1,498人	1,711人	1,776人	1,685人	1,795人
合計	6,257人	6,505人	6,662人	7,229人	7,220人	7,498人

「検診・人間ドックの受診状況」及び「CT及びMRI撮影者数」は、上記のとおりであります。

令和2年度の検診・人間ドックの受診者は、前年度と比較し、一般健診及び人間ドックの受診者は増加しましたが、施設検診の受診者については、「放射能内部被ばく検査」の受診者の減少が続いていることから、115人減少しました。

また、CT及びMRI撮影者数は、前年度と比較し、CT、MRI撮影者数とも増加しております。

(2) 支出の抑制

① 診療材料費の抑制

《目標》

診療材料物流システム(SPD)を活用し、在庫量を縮減するとともに、購入については競争原理を徹底し、購入単価の削減を図る。

《実施結果》

● 診療材料費支出状況

(単位 千円)

	27年度	28年度	29年度	30年度	R元年度	R2年度
放射線材料費	7,019	176	2,817	2,821	3,143	3,670
試薬材料費	53,630	58,820	54,255	57,986	57,257	63,563
診療消耗材料費	280,945	252,004	266,831	265,725	245,238	266,148
合計	341,594	311,000	323,903	326,532	305,638	333,380

令和2年度において、試薬材料費は前年度対比6,306千円増加となりましたが、これは、新型コロナウイルス感染症検査試薬の新規購入等によるものです。

また、診療消耗材料費は前年度対比20,910千円増加となりましたが、これは、元年度に引き続き、一般材料の低額同種同効品への切替え、手術材料等専門材料の

多額購入品の価格交渉により診療材料購入費の削減に努めましたが、手術及び内視鏡治療件数の増加に伴う使用材料の増加等により、20,910千円増加しました。

## ② 薬品費の抑制

### 《目 標》

薬品の購入方法に関して「市場の競争原理」を徹底し、購入費用の削減を図る。  
また、院内採用薬品を順次後発医薬品に切替え、薬品費の削減を図る。

### 《実施結果》

#### ●薬品費支出状況

(単位 千円)

	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度
内用薬	49,465	55,028	54,824	69,551	61,141	52,745
注射薬	329,013	307,416	314,025	314,474	313,414	263,235
外用薬	20,868	18,770	15,070	16,485	16,286	13,304
合 計	399,346	381,214	383,919	400,510	390,841	329,284

#### ●後発医薬品使用割合

	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度
後発医薬品使用割合(%)	57.6	73.2	78.9	78.1	79.1

令和2年度の薬品費は、前年度対比61,557千円の減少となりましたが、これは、薬価改定に伴う購入単価の低減、ベンチマークシステムを活用した価格交渉による購入単価の削減、入院患者の減少等によるものです。

また、購入価格の安価な後発医薬品(ジェネリック医薬品)の使用については、院内の「薬事委員会」を中心に積極的に切替えを進めており、令和2年度の使用割合は79.1%となっております。

## ③ 委託業務の見直し

### 《目 標》

委託業務全般について、その業務内容、委託金額等の見直しを行い、業務の効率化を図るとともに、委託費用の縮減を図る。

### 《実施結果》

#### ●委託料支出状況

(単位 千円)

	27年度	28年度	29年度	30年度	R元年度	R2年度
委託料	289,484	319,137	341,984	350,675	367,526	362,570

令和2年度の委託費は、前年度対比4,956千円の減少となりましたが、これは、業務ごとに委託内容の精査を行い、縮減したものであります。

#### ④ 医療機器整備の適正化

##### 《目 標》

医療機器の購入については、医療機能との連動性を重視し、使用頻度、必要性、採算性が高い医療機器の計画的な購入に努める。また、医療機器の計画的な点検、適切な修繕の実施により効率的な医療機器の運用を図る。

##### 《実施結果》

医療機器の整備については、院内の「医療機器整備委員会」での検討をもとに計画的な整備を行っております。

なお、令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症対応の医療機器を含め、ベットサイドモニター外 34 件総額 127,100 千円の医療機器を整備しました。

#### (3) 患者サービスの向上

##### ① 接遇向上委員会の取組み

##### 《目 標》

院内研修会、患者満足度調査、接遇向上のための各種施策に取り組み、患者サービスの向上に努める。

##### 《実施結果》

##### (A) 患者満足度調査の実施

例年実施している患者満足度調査は、令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症予防の観点から外来患者に対する調査は中止し、入院患者 122 名を対象に実施しました。調査結果は、前年度に引き続き良好な結果となりましたが、調査時に出された要望事項等を詳細に分析し、入院患者が不安なく療養生活を送れるようサービス向上に努めます。

また、食事満足度調査は入院患者 100 名を対象としてアンケート調査を行い、69 名から回答を得ることができました。

調査結果において、主菜・副菜の味付けは、おおむね良好との結果であります。アンケートに際し寄せられたご意見等を今後の提供献立に反映させてまいります。

##### (B) 接遇研修

例年院内全職員を対象とした外部講師による接遇研修会は、新型コロナウイルス感染防止の観点から、令和2年度の開催は中止しました。

##### (C) 各種施策の実施

○接遇新聞の発行（令和2年度 1回発行）

○季節の飾り物（七夕飾り、クリスマスツリー等）の展示

○1病棟でのBGM音楽放送

## ② 外来待ち時間の短縮

### 《目 標》

外来待ち時間の短縮を図るため、各種施策を検討し、実施する。

### 《実施結果》

外来待ち時間のうち診療待ち時間の短縮については、ほとんどの診療科において予約制を導入して待ち時間の短縮に努めております。

しかし、常勤医師が確保できない等の理由により、診療日を制限している診療科において患者が集中し、依然として待ち時間が長くなっている現況にあります。

診療待ち時間の短縮のためには常勤医師の増員が不可欠であることから、本院の最優先課題として常勤医師の確保に取り組んで参ります。

また、診療後の会計待ち時間の短縮については、患者が集中する時間帯に処理スタッフを増員するなど引き続き必要な措置を講じて参ります。

加えて、外来患者を対象として月1回開催しておりました「院内ミニ講座」は、新型コロナウイルス感染予防の観点から令和2年3月から一時中止しておりますが、新型コロナウイルスの感染が収束次第再開したいと考えております。

## ③ 職員の資質向上

### 《目 標》

院内研修の充実、外部研修への派遣を効果的に行い、職員の資質向上に努める。

### 《実施結果》

令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症拡大のため、各種研修会は大半がオンライン開催となりましたが、必要な知識・技能の習得のため、必要に応じ、オンライン形式により参加しました。

## ④ 病院ボランティアについて

病院ボランティアは、患者サービスの一環として平成27年4月から導入し、来院者から好評を得ております。

しかしながら、病院ボランティアも新型コロナウイルス感染拡大に伴い、やむを得ず令和2年4月から活動を一時停止しております。

今後、新型コロナウイルスの感染拡大が収束した際には、改めてボランティアの方々に協力を依頼し、院内ボランティアを再開し、患者サービスの向上を図って参りたいと考えております。

## 5 改革プラン以外の諸課題への取組み

### (1) 経営改善への取組み

平成元年10月外部事業者へ経営改善コンサルティング業務を委託し、事業者から提



案を受けた経営改善項目への令和2年度の実績結果(令和元年度対比)は、次のとおりであります。

① 収益改善施策

ア 地域包括ケア病床の増床	14,920 千円
イ 施設基準の新規届出	232 千円
ウ 診療報酬加算算定	2,209 千円
エ 当院独自の収益改善施策	4,656 千円
(合 計)	22,017 千円

② 費用抑制施策

ア 薬品購入費の削減	△28,708 千円
イ 診療材料費の削減	△7,071 千円
ウ 委託費の削減	△12,516 千円
(合 計)	△48,295 千円

(2) 新型コロナウイルス感染症への対応

① 院内感染対策

- ・ 病院出入口を1カ所に限定  
正面玄関7:00~17:00、救急入口17:00~8:30(ただし22:00で自動ドア閉)  
来院者へのマスクの着用の徹底、検温及び手指消毒の実施
- ・ 受付窓口にて飛沫対策として透明シートの設置
- ・ 面会制限の実施・・・入退院時の付き添い、病状説明など医師の許可があった場合に限る。
- ・ 職員の感染防止の徹底・・・健康観察シート(検温)、マスクの着用
- ・ 新型コロナウイルス感染対策研修会開催(年2回)

② 新型コロナウイルスワクチン接種事業等への協力

相馬市及び新地町の新型コロナウイルスワクチン接種事業(集団・施設)について、次のとおり職員を派遣し、新型コロナウイルスワクチンの早期接種に協力しました。

	医 師	看 護 師	薬 剤 師	事 務 職 員	合 計
相 馬 市	148	220	38	150	556
新 地 町	20	18	0	18	56
合 計	168	238	38	168	612

※上記人数は、それぞれ派遣した職員の延人数です。

また、令和2年4月相馬市が設置した「発熱外来」についても、継続的に医師及び看護師を派遣し、新型コロナウイルス感染症患者の早期対応に協力しております。



## 令和2年度 入院・外来患者利用状況(診療科別)

## 【入院】

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	2,135	2,075	2,106	2,286	2,432	2,214	2,213	2,080	2,263	2,114	1,818	2,260	25,996
外科	605	502	505	657	514	608	493	417	453	453	451	470	6,128
整形外科	565	487	656	536	492	489	733	830	780	670	651	674	7,563
小児科	51	58	47	66	68	52	66	83	106	76	58	39	770
眼科	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
泌尿器科	382	364	316	313	318	136	239	258	328	284	308	270	3,516
産婦人科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
皮膚科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	3,738	3,487	3,631	3,858	3,824	3,499	3,744	3,668	3,930	3,597	3,286	3,713	43,975
診療実日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
1日平均患者数	124.6	112.5	121.0	124.5	123.4	116.6	120.8	122.3	126.8	116.0	117.4	119.8	120.5

## 【外来】

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	3,548	3,419	3,685	3,927	3,823	4,005	4,110	3,864	4,024	3,840	3,523	4,046	45,814
外科	574	558	638	623	670	616	672	561	581	526	582	680	7,281
整形外科	563	540	570	595	624	599	595	603	585	478	490	593	6,835
小児科	358	324	464	524	560	524	529	536	556	430	447	553	5,805
眼科	401	356	487	475	472	509	463	455	497	384	418	547	5,464
泌尿器科	1,231	1,137	1,174	1,265	1,216	1,239	1,248	1,271	1,285	1,281	1,212	1,336	14,895
産婦人科	25	36	52	40	33	56	55	36	51	35	33	51	503
耳鼻咽喉科	255	272	390	385	345	322	358	311	297	273	338	466	4,012
皮膚科	230	230	248	315	323	318	296	262	264	231	239	273	3,229
合計	7,185	6,872	7,708	8,149	8,066	8,188	8,326	7,899	8,140	7,478	7,282	8,545	93,838
診療実日数	21	18	22	21	20	20	22	19	20	19	18	23	243
1日平均患者数	342.1	381.8	350.4	388.0	403.3	409.4	378.5	415.7	407.0	393.6	404.6	371.5	386.2

令和2年度 入院患者・外来患者状況(前年度比較)

## 【入院】

(単位:人)

	令和元年度	令和2年度	比較
内科	27,707	25,996	△1,711
外科	6,953	6,128	△825
整形外科	5,550	7,563	2,013
小児科	2,154	770	△1,384
眼科	0	2	2
泌尿器科	4,327	3,516	△811
産婦人科	0	0	0
耳鼻咽喉科	0	0	0
皮膚科	0	0	0
合計	46,691	43,975	△2,716
診療実日数	366	365	△1
1日平均患者数	127.6	120.5	△7.1

## 【外来】

(単位:人)

	令和元年度	令和2年度	比較
内科	47,453	45,814	△1,639
外科	8,204	7,281	△923
整形外科	7,200	6,835	△365
小児科	11,029	5,805	△5,224
眼科	5,479	5,464	△15
泌尿器科	15,115	14,895	△220
産婦人科	545	503	△42
耳鼻咽喉科	5,052	4,012	△1,040
皮膚科	3,289	3,229	△60
合計	103,366	93,838	△9,528
診療実日数	242	243	1
1日平均患者数	427.1	386.2	△41.0

## 令和2年度 公立相馬総合病院事業会計決算概要

## 【収 益】

(単位：千円)

款	項	目	令和元年度	令和2年度	比 較
1 病院事業収益			4,164,026	4,069,525	△94,501
	1 医業収益		3,047,324	2,959,313	△88,011
		1 入院収益	1,767,419	1,760,981	△6,438
		2 外来収益	1,076,036	1,002,038	△73,998
		3 その他医業収益	203,869	196,294	△7,575
	2 医業外収益		656,702	867,378	210,676
		1 受取利息配当金	3	3	0
		2 国補助金	4,033	5,527	1,494
		3 県補助金	4,286	236,038	231,752
		4 他会計負担金	303,871	296,675	△7,196
		5 患者外給食収益	1,762	1,598	△164
		6 市町村補助金	5,257	5,683	426
		7 院内保育収益	1,482	1,577	95
		8 長期前受金戻入	291,772	276,603	△15,169
		9 その他医業外収益	44,236	43,674	△562
	3 特別利益		460,000	242,834	△217,166
		1 固定資産売却益	0	0	0
		2 過年度損益修正益	0	0	0
		3 その他特別利益	460,000	242,834	△217,166
収 益 合 計			4,164,026	4,069,525	△94,501

## 【費 用】

(単位：千円)

款	項	目	令和元年度	令和2年度	比 較
1 病院事業費用			3,988,998	3,921,954	△67,044
	1 医業費用		3,791,711	3,657,274	△134,437
		1 医師職員給与費	395,391	411,310	15,919
		2 事務職員給与費	131,298	96,715	△34,583
		3 看護師職員給与費	898,593	856,063	△42,530
		4 准看護師職員給与費	28,488	27,591	△897
		5 技師職員等給与費	294,999	284,306	△10,693
		6 材 料 費	699,380	665,675	△33,705
		7 経 費	598,023	596,292	△1,731
		8 減 価 償 却 費	396,220	374,700	△21,520
		9 資 産 減 耗 費	2,159	3,543	1,384
		10 研 究 研 修 費	5,976	3,682	△2,294
		11 その他医業費用	341,184	337,397	△3,787
	2 医業外費用		192,698	199,632	6,934
		1 支 払 利 息	55,759	47,175	△8,584
		2 患者外給食材料費	2,905	2,675	△230
		3 院内保育所運営費	17,649	17,344	△305
		4 雑 損 失	116,385	132,438	16,053
	3 特別損失		4,589	65,048	60,459
		1 固定資産売却損	0	0	0
		2 過年度損益修正損	1,949	2,214	265
		3 その他特別損失	2,640	62,834	60,194
費 用 合 計			3,988,998	3,921,954	△67,044

当 年 度 収 支	175,028	147,571
-----------	---------	---------



## 令和2年度 収支計画実績

## 1 収益的収支

(単位:百万円、%)

		令和元年度(実績)	令和2年度(見込)	令和2年度(実績)	比較
収 入	1. 医業収益 a	3,047	3,314	2,959	▲ 355
	(1) 料金収入	2,843	3,128	2,763	▲ 365
	(2) その他	204	186	196	10
	うち他会計負担金	98	91	102	11
	2. 医業外収益	657	580	867	287
	(1) 他会計負担金・補助金	304	243	297	54
	(2) 国(県)補助金	8	10	241	231
	(3) 長期前受金戻入	292	269	277	8
	(4) その他	53	58	52	▲ 6
	経常収益(A)	3,704	3,894	3,826	▲ 68
支 出	1. 医業費用 b	3,792	3,870	3,657	▲ 213
	(1) 職員給与費 c	1,749	1,795	1,676	▲ 119
	(2) 材料費	699	771	666	▲ 105
	(3) 経費	598	637	596	▲ 41
	(4) 減価償却費	396	374	375	1
	(5) その他	350	293	344	51
	2. 医業外費用	192	178	199	21
	(1) 支払利息	56	42	47	5
	(2) その他	136	136	152	16
	経常費用(B)	3,984	4,048	3,856	▲ 192
経常損益(A)-(B)(C)		▲ 280	▲ 154	▲ 30	124
特別 損益	1. 特別利益(D)	460	0	243	243
	2. 特別損失(E)	5	2	65	63
	特別損益(D)-(E)(F)	455	▲ 2	178	180
純損益(C)+(F)		175	▲ 156	148	304
累積欠損金(G)		3,429	4,343	3,281	▲ 1,062
不 良 債 務	流動資産(ア)	846	661	763	102
	流動負債(イ)	1,246	781	1,070	289
	うち一時借入金	650	300	600	300
	翌年度繰越財源(ウ)	0	0	0	0
	当年度同意等債で未借入 又は未発行の額(エ)	0	0	0	0
	差引 不良債務 [(イ)-(エ)]-[(ア)-(ウ)](オ)	400	120	307	187
経常収支比率 $\frac{(A)}{(B)} \times 100$		93.0	96.2	99.2	3.0
不良債務比率 $\frac{(オ)}{a} \times 100$		13.1	3.6	10.4	6.7
医業収支比率 $\frac{a}{b} \times 100$		80.4	85.6	80.9	▲ 4.7
職員給与費対医業収益比率 $\frac{c}{a} \times 100$		57.4	54.2	56.6	2.5
地方財政法施行令第15条第1項 により算定した資金の不足額(H)		400	120	307	187
資金不足比率 $\frac{(H)}{a} \times 100$		13.1	3.6	10.4	6.7
病床利用率		64.4	65.2	73.5	8.3

## 2 資本的収支

(単位:百万円、%)

		令和元年度(実績)	令和2年度(見込)	令和2年度(実績)	比較
収	1. 企業債	0	0	0	0
	2. 他会計出資金	186	205	185	▲ 20
	3. 他会計負担金	0	0	0	0
	4. 他会計借入金	0	0	0	0
	5. 他会計補助金	0	0	0	0
	6. 国(県)補助金	0	0	101	0
	7. その他	0	0	0	0
	収入計 (a)	186	205	286	81
入	うち翌年度へ繰り越される 支出の財源充当額	(b)	0	0	0
	前年度許可債で当年度借 入	(c)	0	0	0
	純計(a)-{(b)+(c)} (A)	186	205	286	81
支 出	1. 建設改良費	51	60	131	71
	2. 企業債償還金	254	264	264	0
	3. 他会計長期借入金返還金	0	0	0	0
	4. その他	5		5	5
	支出計 (B)	310	324	400	76
	差引不足額 (B)-(A) (C)	124	119	114	▲ 5
補 て ん 財 源	1. 損益勘定留保資金	124	119	114	▲ 5
	2. 利益剰余金処分量	0	0	0	0
	3. 繰越工事資金	0	0	0	0
	4. その他	0	0	0	0
	計 (D)	124	119	114	▲ 5
	補てん財源不足額 (C)-(D) (E)	0	0	0	0
	当年度同意等債で未借入 又は未発行の額 (F)	0	0	0	0
	実質財源不足額 (E)-(F)	0	0	0	0

## 3 一般会計等からの繰入金の見通し

	令和元年度(実績)	令和2年度(見込)	令和2年度(実績)	比較
収益的収支	( 460)	( 0)	( 180)	( 180)
	862	334	578	244
資本的収支	( 0)	( 0)	( 0)	( 0)
	186	0	185	185
合計	( 480)	( 0)	( 180)	( 180)
	1,048	334	763	429

(注)

( )内はうち基準外繰入金額を記入すること。



(別紙2)

改革プラン達成のための経営指標(実績)

		令和元年度 (実績)	令和2年度 (見込)	令和2年度 (実績)	比較
A	経常収支比率(%)	93.0	96.2	99.2	3.0
B	医業収支比率(%)	80.4	85.6	80.9	▲ 4.7
C	資金不足比率(%)	13.1	3.6	10.4	6.8
D <sub>1</sub>	材料費対医業収益比率(%)	22.9	23.3	22.5	▲ 0.8
D <sub>2</sub>	薬品費対医業収益比率(%)	12.8	12.5	11.1	▲ 1.4
D <sub>3</sub>	委託費対医業収益比率(%)	12.1	11.9	12.3	0.4
D <sub>4</sub>	職員給与費対医業収益比率(%)	57.4	54.2	56.6	2.4
E	後発医薬品使用割合(%)	78.9	70.0	79.1	9.1
F <sub>1</sub>	1日当たり入院患者数(人)	127.6	150.0	120.5	▲ 29.5
G <sub>1</sub>	入院単価(円)	37,854	37,500	40,053	2,553
F <sub>2</sub>	1日当たり外来患者数(人)	427.1	498.0	386.2	▲ 111.8
G <sub>2</sub>	外来単価(円)	10,410	8,880	10,681	1,801
H	病床利用率(%)	64.4	65.2	73.5	8.3
I	平均在院日数(日)	12.7	14.4	13.4	▲ 1.0
J	医師数(人)	22	24	23	▲ 1
K	現金残高(百万円)	333	140	245	105
L	企業債残高(百万円)	2,440	2,176	2,176	0

(参考)

薬品費(百万円)	390.8	413.3	329.3	▲ 84.0
委託費(百万円)	367.5	393.5	362.6	▲ 30.9



(別紙3)

**医療機能等指標に係る想定値(実績)**

	令和元年度 (実績)	令和2年度 (見込)	令和2年度 (実績)	比較
救急患者数	6,863	7,501	4,353	▲ 3,148
救急車搬送患者数	943	957	855	▲ 102
手術件数	749	742	774	32
臨床研修医受入件数	4	2	4	2
医師派遣件数	1,110	945	1,071	126
紹介率(%)	39	36	40	4
逆紹介率(%)	19	21	22	1
訪問診療・看護件数	40	157	45	▲ 112
在宅復帰率(7:1看護で使用)	96	87	89	2
リハビリ件数(単位:1単位20分)	12,050	11,030	11,501	471
クリニカルパス件数	2,025	2,416	1,644	▲ 772
医療相談件数	1,871	1,126	1,843	717
患者満足度率(入院、%)	95	90	90	0
患者満足度率(外来、%)	86	80	(調査なし)	—